




研究者名※	松尾 廣文 MATSUO Hirofumi	学位※	修士(学校教育学)
所属※	人間社会学部 教育学科	職名※	特任教授
連絡先	matsuoh@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※			
研究分野※	教科外教育(道徳・総合的な学習の時間) 教育学(学校経営)		
研究キーワード※	教育方法 道徳性発達 社会的視点取得能力 教材開発 学校経営		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区学校経営研修会 講師(2022) ・東京都中学校清和会管理職研修 講師(2021) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都教育委員会職員表彰(学校経営)(2017) 		

研究領域	教科外教育 (道徳教育)	(SDGs)		
研究テーマ※	社会的視点取得能力検査の開発と応用			
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 コールバーグ (L・Kohlberg) による道徳性発達段階の先行要因とされているものが、セルマン (Selman,R.) の役割取得能力である。本邦では初となる役割取得能力を測定する中学生版社会的視点取得検査「アルメニア課題」の開発・標準化を行った (荒木・松尾)。 道徳性発達段階の測定には、既に標準化されている「山田さんのジレンマ」 (コールバーグの例話Ⅲ、ハインツのジレンマの邦訳) による「『規範-基本』判断判定法」 (荒木、前田、八重柏 1985) を使用した。中学生の道徳性と社会的視点取得能力の結果に、各発達段階値の大きさに応じて1点から4点の負荷点を与えて、それぞれの平均値、SDを求めた。</p>			
	道徳性得点と社会的視点取得の関係			
	検査の種類	人数	平均	SD
	道徳性	678	2.29	0.61
社会的視点取得	668	2.72	0.56	
<p>社会的視点取得の全体の平均値は、道徳性の平均値を上回り、その差は有意であった (t=13.49, df=1995, p<0.001)。社会的視点取得能力の発達は道徳性のそれより早いといえることができる。</p> <p>【応用例、研究の展望】 社会的視点取得能力の発達段階は、道徳性の発達段階と多くの場合、同じか、または一段階高い関係にあった。道徳性発達と社会的視点取得能力について発達段階別にその出現頻度と相対的出現率を比較し、両者の相関を調べたところ、r=0.618 (n=666) という比較的高い関係を得た。 道徳教育を考える際、役割取得の機会を授業に効果的に導入することで、児童・生徒の道徳性発達が効果的に促進できると考える。 また役割取得における「一般的他者」の視点や「結果の予測」を推量させる発問を教科や総合的な学習の時間の授業にも導入することで、社会的視点取得が推進され多様な考えを導き出す可能性がある。</p>				
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生版社会的視点取得検査 荒木紀幸 松尾廣文 2015 トーヨーフィジカル 			
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 			